

第五話 Fireworkers と四つの災難

これまでの話

カルスガルドでそれぞれ意中の NPC と思い思いにデートを楽しんだ Fireworkers。明らかに怪しげな Asvig を倒し、船での葬式現場に突入したものの、全ては空振りで、Ameiko、そして Uksahkka をその際に攫われる始末であった。

ヘクヤの災難

メリケンシティアドベンチャーの意外なミスリードにぐったりしながらも、一行が一晩駆けずり回って宿に戻ると、朝、こんなならず者達にも心安く接してくれたウェイトレスのヘクヤさんの死体が発見されたとの連絡があった。

「デートの場所のアドバイスも貰ったのに！」

と市警について現場に行くと、そこは海辺だった。

どうやら背中から刺された後、海に死体を投げ込まれたらしい。

下手人はおそらく盗賊ギルド、Frozen Shadows なのだろう。

カラスに攫われた Uksahkka もそうだし、となると Ameiko も Ulf もその手に落ちているに違いない。

しかしそれ以上の手がかりがないのだ。

一応 Frozen Shadows が最初に海賊に襲われた時の船の持ち主である商人ギルド、Rime Runners と繋がりがある事は分かっているものの、

社長の Thorborg Silverskorr は滅多に人前に姿を表さないらしいし、ギルドも表向きには真っ当に商売しているらしい。

何も証拠がないのに踏み込んではこちらが悪党だ。

「証拠なら Detect Evil で見つければいいじゃないか！」

LGC の Kiri はそう主張するが、まあ勿論それについて行く者なんていない。

とりあえず昨夜持ち帰っていた Asvig の死体に聞いてみる事に。

「誰に頼まれた？」

「さあねえ」

「Thorborg に会ったことはあるか？」

「直接は” ないね」

「何故 Rime Runners Guild に頼まれて我々を襲った？」

「ただの金目当てだよ」

(誘導尋問で言質取ったり！！)

しかしやはりこれだけでカチ込むには無理がある となおも一行が物騒な相談をしていると、Sandru が呆れ顔で入って来て、それなら普通にキャラバンで商売の話をしにいきゃいいじゃねえかと言った。

Rime Runners Guild の災難

なおも相談を続けて一行は Diplomacy 班と Invisi 班に分かれて、商談をしている間に忍び込んで調べる事にした。

Diplomacy 班の Kiri、Rosetta、Risaka の三人は面が割れないようにと変装をする。

「Risaka はどんな感じがいいんだい？」

「あー……じゃありア充風に蛮族っぽく」

「よーし、面接をするって体で外から Detect Evil するから Risaka 来て」

往来で Kiri と Risaka が市警に目を付けられた後、予定通り一行は Rime Runners Guild の門を叩いた。

Invisi 組の Curro、Dian、Harfwol は Diplomacy 組は、扉の前で Rime Runners の衛兵と話している間に敷地内に忍び込もうとする。

しかし Curro だけ忍び足に失敗して気が付かれそうになってしまい、Rosetta がとっさの機転で金を地面にばら撒いて誤魔化した。

その後も出来るだけ大きな声を出したり、鎧をジャラジャラ鳴らしたりしながら、

Risaka が蛮族らしく、「おおー故郷にはこんな石の扉はなかったぞー」と強引に扉を開け、

取引の行われる部屋へ入る事が出来たが、既にその頃には Invisi の時間は残り少なかった。

Guild 側も度重なる奇行に我慢の限界が来たのか、「お客様、お帰り頂けませんか」との支配人の声と共に

続き部屋の扉が開いて、臨戦モードの衛兵が姿を表した。

どうする…？と目配せをしたくとも、透明な状態の人間とは意思疎通が出来ない。

三者の行動は、てんでばらばらだった。

そんな事言わないで商談を、と続けようとする Kiri。

これは引いた方が良さそうだと冷静に判断し、門の外へ逃げ出す Dian。

そして何を血迷ったのか いや、きっと彼は Invisi が切れる前にせめて何か情報を得ようとしたのだろう…。少しばかりその手段がならず者に染まってしまっただけなのだ、身の俊敏さに委せて衛兵二人をすり抜けて Curro は奥の通路に入り込んだ。

「おい、なんか透明なものがすり抜けて行ったぞ！」

「おい、こっちもだ！」

Harfwol までもが後に続いて場は騒然となる。

「これは我が部族の悪霊だ！こんな所まで追いかけて来たのか！」

と Risaka は踊りながらお祓い棒もといマスケットを抜き、

「おお、神よ！」

と神に祈るふりをしながら Kiri は聖印に力を込め、

「一体これはどういう事だ！」

と Rosetta は知らないふりを決め込む。

通路で衛兵と対峙する Curro はこれはいつも通り制圧するパターンだと踏んで、バフをかけて着々と戦闘態勢を整えるが、

階段の上から増援がぞろぞろと六人ばかり現れて、階下と合わせて十人になるのを見て少し顔色を変えた。

しかも衛兵はただのエキストラではなく、訓練をしっかり積んだ Fighter4 以上の模様。自分の能力で消えることが出来るので透明のままの Harfwol が回復してくれるとしても一人では不利、

しかも Diplomacy 組の三人はあくまでも白を切るつもりと分かって、ようやくここで自分の失敗を悟った。

商館の一般職員が逃げ出そうとしていた裏口から、逃げ出して雑踏に紛れ込む。

しかし Curro が逃げても事態は収まらず、衛兵達はどうせグルだろうと Diplomacy 組を捕まえようとして来たので、

ひまわりされてふらふらになりながらも、Glitter Dust で半数程無力化して窓から出、塀を登って逃げる事となった。

一方 Harfwol はその頃、Guild 商館の二階にいた。

Curro が逃げるならばと、Levitate で階段に詰まっている増援の衛兵の頭上を歩いて、登って来ていたのだ。

下ではまだドタバタと騒ぎが続いているようで、しばらくここに衛兵は上がって来ないだろう。今が調べるチャンスだ。

そうして二階を見ていると、Gest Quater という鍵の掛かった区画があった。

潜入捜査は出来ても鍵開けは出来ないので、再び Levitate を使い窓から外を回って入る。

そこで Detect Thoughts で誰かいないか調べると、(私、どうなっちゃうんだろうなあ...) という思考が一つあったので、

思考のあった部屋を開けるとそこに捕まっていたのは、Ulf の仲間の Uksahkka だった。

他にも鍵の掛かった部屋はあったがどうしようもないので、とりあえずの成果を上げて、

Harfwol は Uksahkka と一緒に窓から帰った。

三倍の災難

騒ぎを起こして一行は、気力的にへとへとになりながら宿へと帰っていた。

その正面に、黒い影が。

「ドーモ、オモヤニデス」

忍者はそう名乗ると、「忍者奥義、分身の術！」と言って3人に分裂した。

しかも最初路地の幅は3マスだったのに、書き直されて4マス、

忍者より早く動いた Kiri が Smite をしていたのに、Smite したのはこの1番ですね？と残りの二人で Flank して来る。

前に出ている Kiri の他に、スカウターヘイトのあった Curro と Dian が手裏剣での Full Attack を受け、

Con の減るデスブレード毒を食らった。

しかも毒は1発ではなく、もう1発デスブレード、更に Con の減るブラック・ロータス毒まで忍者は持っていて、

市価にして 8100gp の毒 × 3 を惜しげも無く浴びせて来た。

毒の被害を減らさなくてはと、皆で狙いを絞って集中攻撃をするが、Risaka はどうした事か今日に限って不発が多く、Curro の攻撃が急に当たって一体を倒す頃には全員に毒が回っていた。

だがしかし毒がなくなってもまだ忍者には、凶悪な自爆が残っている。

Stunning Fist で Kiri と Curro が交互に倒れながらも、最初に分身した筈の忍者を倒すも、最後まで残った奴が本体に決まっているらしく、最悪な場所とタイミングで忍者は介錯・爆発四散した。

幸いキャラバンの近くだったので、Koya と Spivey にも協力してもらって Harfwol と三人で Lesser Restriction を唱えながら

なんとか全員毒のダメージに耐える事が出来た。

毒まで分裂した忍者のドロップは、一人分だった。

馬と毒の災難

夜に Kiri と Dian で再び Rime Runners Guild の二階に潜入した所、

Asvig の海賊団に船を貸し出した記録や Asvig を雇った目的、Ravenscraeg という場所への不正な金の流れが書かれた書類を発見した。

ついでに 2000gp の現金もあって、脅威は三体分なのに宝は一体分で金欠の一行としては喉から手が出る程欲しい所だったが、

潜入していたのがこういう時だけ Good の気がする Kiri だったので諦めざるを得なかった。

書類により Ravenscraeg の場所も判明したので、戦力になる Koya と Shalelu を連れて馬で出発する。

しかし快適な旅路だったのは最初だけで、途中の回り込めない大きさの沼地で、茶色いウーズと遭遇して馬は逃げてしまった。

ウーズは分裂して燃やすのが冒険者のレシピらしいという事でそれを実行しようとするも、分裂させないダメージリソースが意外に多くて、中途半場に増やして、しかも 5d6=6 で燃やせなかった。

馬が逃げてしまったのでその夜は野宿だったが、当直中の Risaka が 2 と言っても何もなかった。

次の日着いた崖の上に石の館と塔がそびえ立つ場所が、Ravenscraeg だった。

曲がりくねった木の階段の橋が、登るために架かっている。

一列になって一行が階段を登っていると、踊り場に大きな蜘蛛の巣があった。

蜘蛛は何故か一行の先頭を見るなり、列の後ろ側の Risaka の所まで飛んで来て、Risaka を麻痺させた。

更に倒すと上から天狗忍者が滑空して来て、「デスブレード！」と叫びながら吹き矢を撃って来る。

ここ数日の内に Fireworkers の目の前で消費された毒は、これで 30000gp 近くとなった。

天狗忍者と一緒に落ちて来た鷹っぽい大猿は、麻痺した Risaka を狙おうとしていたので、Harfwol

が霧を張って守り、
忍者達には Kiri が Fairy Fire で消えられないようにして、倒した。

Risaka が動けなかったので担いで降りて、一晩を崖の下で明かし、
ようやく一行は Ravenscraeg へと辿り着いたのだった…。

to be continued.....

ロールパンポイント

Risaka : 0.5

Rosetta : 0.7

Kiri : 0.3

Harfwol : 0.6

Dian : 0.4

Curro : 0.2